（別紙4-1）　　NPO法人　福祉サービス評価機構Kネット

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0191000231		
法人名	社会福祉法人　北海道友愛福祉会		
事業所名	グループホーム　ゆうあい　（ひまわり）		
所在地	江別市豊幌美咲町23-14		
自己評価作成日	平成28年7月19日	評価結果市町村受理日	平成28年8月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191000231-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・入居者一人ひとりが自分らしく生活を送れるよう会議や日常的に話し合いをしている。
・施設併設の管理栄養士による食事提供の為、栄養面や豊富なメニューが揃っている。
・調理が少ない事で入居者様との時間が多く持つことができ、個別に関わる時間がある。
・中央に大きな交流ホールがある為、行事やボランティア活動が容易に可能。
・花壇や畑が完備され入居者様が容易的に利用できるようになっている。
・近くに公園があり、休日は子供達が楽しく笑う声が聞こえてくる。
・住宅街に立地しているが緑に囲まれて日中でも夜間帯でも静かな環境で過ごす事ができる

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年8月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、併設の高齢者介護施設開設40周年を記念し、地域貢献として開設され、3年経過している。運営法人は基より、併設の施設とは避難訓練や食事作り、行事、各種委員会等を通し様々な協力や支援を得ている。地域の方々からも、運営推進会議の中で地域行事の誘いや運営に関しての助言や意見を頂き、事業所の質の向上に繋げている。利用者に寄り添う時間確保のため、副食とデザートは併設の施設から届けられているが、彩りや栄養バランスに配慮している。給食委員会に参加している看護職員を通じ、利用者の要望を伝え食の楽しみに繋げる取り組みが行われている。職員の日程表には、「声を掛け合おう！」「一人で困らない！困らせない！HELP魂！」の言葉が記載され、チームケアを目指した取り組みが充実している。更なる地域交流スペースの活用や、利用者が笑顔で明るく過ごせる環境作りを目指している事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の他に独自の職員の基本姿勢や基本方針があり皆で共有している。	職員の意見が反映された事業所理念と理念を具体化した基本方針を策定し、事業所内での掲示や名札の裏面に印字している。職員の共通理解に繋がる理念の掘り下げを予定している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアに来て頂き、交流を深めている。その他、年一回のグループホーム交流会にも参加し他のグループホームと交流がある。	事業所内に地域交流スペースを設けている。利用者は地元での買い物や地域の祭り等を楽しんでいる。併設の施設や事業所を訪れ、歌や踊り、演奏を披露する園児や小学生、ボランティアとの触れ合いは五感刺激になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症講演会などの勉強会に積極的に参加し理解を深め家族の面会時、日常生活の状況と合わせ病状についての相談を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、ホーム内の状況を報告し意見や地域とのつながりがより密になるような取り組み方などアドバイスを頂きサービス向上に活かせるよう努めている。	運営推進会議は、地域、家族、地域包括支援センター職員の参加を得て定期的に開催している。活動報告後にメンバーから評価や意見、情報等が寄せられ運営の充実に生かしている。	家族の参加が固定化されているので、家族に運営推進会議を開催する意義や会議の内容の周知、併せて議事録の記載方法の工夫等により参加に繋がる取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年から定期的に実施されている管理者同士の会議に参加し意見交換や情報収集を行っている。日頃から協力関係を築けるよう努めている。	事故報告書等の提出時は、管理者が担当部署を訪れている。運営に関することは電子メールや電話等で報告や相談を行い、適切な情報や助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り不足になる時間帯や危険と思われる状況の場合、安全性を考慮し家族の同意を得て実施する場合もあるが危険性がないと判断できる状況になり次第、速やかに廃止するよう取り組んでいる。	職員は法人主催の身体拘束ゼロ委員会へ所属し、マニュアルを共有している。家族の了解を得てセンサーマットの使用や玄関の内ドアを施錠するときもあるが、職員は常に状況を把握し抑制の無いケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等についての研修に参加し、会議等で発表する機会がないが今年度は検討中。また、入居者様の対応について職員間で話し合いを設け防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご本人の家族関係を重視した中で制度の活用について必要な事を関係者、ご家族と相談を十分に行っている。成年後見制度の入居者様は一名おり、今後、必要な方がいる場合は活用をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明を実施。入居者様が理解、納得するのは難しいがご家族などには十分な理解が得られるように説明を行い、不安や疑問点に応えられるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には日頃の様子を伝えることから始まり、気軽に意見、不満等が表出できるように配慮している。運営推進会議ではご家族の参加もあり、現状を報告し活発な話し合いが行われている。	月１回発行の担当職員からのメッセージを添えた「ゆうあい便り」や、家族来訪時、電話等で利用者の日常を伝えている。関わりの中から出された意見や要望は迅速に解決策を講じる体制になっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案要望は会議で検討している。職員の面談も行い、思いや疑問などを聴く場を設けている。	法人職員や統括施設長は、会議や職員面談等で事業所を訪れ現状を把握している。職員は行事や研修等を担当し、事業所の質向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し給与、労働時間など各自の希望する条件の整備に努め出来る限り、希望に沿えるように考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修は全職員が参加し共有し再度話し合いの場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームが共同で交流会を開催しており、準備の為、毎月一回、各グループホームの担当職員が集まって会議を実施。また、毎月一回、管理者が集まる会議で情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と接する時は常に耳を傾けより良い関係になるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見を聞き取り、より良い関係になるように関わりを持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に職員として利用者と家族に対し、耳を傾け支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の生活の中で支援するばかりではなくお手伝いを快くして頂く関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を取りやすい関係に日頃から務め、また、支え合える事柄を尊重し支援できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時の習慣にしている事柄を尊重し支援できるよう努めている。	職員は利用者の生活歴を共有し、これまで培って来た社会との関係性を尊重している。地域行事の参加や知人の来訪受け入れ、家族の協力を得ながら自宅や馴染みの場所を訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声をかけ、利用者同士の会話やレク、趣味活動ができる雰囲気づくりや関わりを持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者やそのご家族から問い合わせ等あった時は適切な対応を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴や思いを聞き取り、ご本人の希望に合わせた介護計画を作成しケアする事に努めている。	日々の関わりの中から利用者の気持ちを推し量りケアに生かしている。コミュニケーションが難しい場合は、生活歴や日々の記録、家族からの情報を基に職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族との関係を深める中でこれまでの暮らし方を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の現状を日々、職員に周知すると共に毎月や適宜カンファレンスを行い、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスを通し、また、ご本人の状況、ご家族の思いを確認する中で時には計画の見直しをするなど現状に合った計画作成をしている。	介護計画作成時は、日々の関わりの中から利用者や家族の生活への要望を把握し、担当職員や看護職員など利用者に関係する職員の意見や日々の記録を参考に作成している。	職員意見が反映された介護計画作成への取り組みと、介護計画の実践が容易に確認できる書式の整備にも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を全職員が記入し共有し、介護計画に沿ったケアを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なケアではなく、その時々のご本人の状況に合わせたケアを行いニーズに合わせた支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設との合同の行事や市内グループホーム合同での行事に参加。ボランティアの活用等をおこない、楽しい時間をもてるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望者はご家族と一緒に受診して頂いています。また、在診など、適切な医療を受けられるよう支援をしている。	利用者は利用以前のかかりつけ医を主治医とし、家族が同行している。状態によっては、往診も可能である。家族対応が困難な場合は看護職員が受診支援を行い、利用者の健康状態は関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が一名しかおらず、休日は指示されたケアを代行している。体調に変化がある場合は看護師へ連絡し速やかな対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医療機関と関係を密にするよう努めている。また、看護師からもその都度、情報を伝達している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今まで終末期の入居者様はいませんでしたが契約時に重度化への対応について十分な説明をしている。必要時は再度、説明し対応をする事を伝えている。	契約時に重度化や終末期に向けた医療体制を説明している。看取りの経験はないが重篤時には改めて指針を説明し、同意書にて意思確認を取る体制になっている。	重度化や終末期に備え、さらなる知識や技術の習得、環境整備等を検討しているので、その実行に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員個々で学んでいるが今年度、施設内研修を予定。また、急変時のマニュアルを配付している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の避難訓練を実施。消防や地域の消防団を交え訓練を行っている。	避難訓練は消防署や消防団、地域の方々の協力の下、併設の介護施設と合同で様々な場面を想定し年4回実施している。避難経路の確認や非常時備蓄品も整備している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重しケアを行っている。	居室には洗面台やトイレが設置され、また、施錠も可能でありプライバシーに配慮している。利用者の尊厳を念頭に言葉かけや支援を行っている。個人情報も適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で様々な場面で自分で選択した行動がとれるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースに合わせ生活をする事ができるよう、都度、声掛け、確認を行いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい好みを尊重し、おしゃれしたり、服などを選ぶことができるよう支援をしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本食事を作ることはないが職員、入居者様が一緒に食事の準備や片づけを行っている。年に一回、野外食は職員、入居者様、ご家族で準備している。	ご飯と味噌汁は利用者と作っているが、副食やデザートは併設の介護施設から届いている。菜園で採れた野菜を漬け物にしたり、外食や家族も交えた屋外でのジンギスカン、おやつ作り等で食事の楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量が一日を通じて確保できるよう入居者様の状態や習慣に応じた支援ができている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れやにおいが生じないように一人ひとりの口腔状態に応じたケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに合わせたトイレ誘導を行っている。排泄時間、排泄の有無、量を記録し次のケアにつなげている。	大半の利用者は居室のトイレで自立排泄しているが、声かけや誘導による支援でトイレでの排泄に繋がる利用者もいる。衛生用品の使用は、職員間で常に検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品、食物繊維のファイバーを提供し、便秘にならないよう注意している。一人ひとりに応じた対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	リラックスして入浴できるよう一人ひとりの体調や希望に合わせた支援をしている。また、入浴が困難な場合は清拭を行っている。	常に入浴出来る態勢になっているが、各利用者の希望に合わせ基本的に週2回の入浴支援を行っている。入浴時には、利用者の要望が聞け介護計画に反映することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握しゆっくりと居室で休んで頂けるよう温度、明るさなどを調節し個々に合わせた環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースに薬剤情報書を添付し全職員が理解できるよう努めている。介護、看護、日誌を確認したり申し送りで病状と薬の変更を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味を生かして役割や楽しみを持ち充実した日々をすごせるよう支援している。また、花壇や畑づくりに携わり、気分転換や鑑賞、収穫の楽しみを持つ支援をしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせ散歩やドライブ、畑作業を職員と行っている。外で行う行事を積極的に企画しご家族も一緒に参加できるよう支援している。	事業所は自然環境に恵まれており、利用者は職員の支援の下、散歩をしたり畑の野菜や花壇を眺めるなど外気に触れている。外出行事を計画したり、家族の協力も得ながら利用者の希望に沿った外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフと一緒に買い物に出掛け希望の物を購入したり、お金の支払いが難しい時は職員が支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族や大切な人に電話をしたり、手紙を書いたりできるよう支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けや温かみある空間づくりに努めている。温度計、湿度計を各居室に設置。光や色使いに注意して心地よく過ごせるよう工夫している。	事業所全体がゆったりとした造りになっている。どの場所にいても窓から緑豊かな風景が見られ、落ち着いた環境になっている。明るく清潔感に溢れた共用空間には、季節に応じた飾り付けや行事等の写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間において個々のペースで生活できるようテーブル、イスを自由に配置したり、気軽に談話できるソファを設置し一人になれたり、気の合った入居者様同士で過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よくすごせるよう家具、寝具などは使い慣れたものを使用し配置も本人と家族の希望を尊重している。思い出の物を置くことでその人らしい居室で過ごせる工夫をしている。	居室は約8．5畳あり、ベットやトイレ、洗面台、温湿度計が設置されている。居室作りは利用者や家族の思いが反映されており、調度品や趣味の物等が動線に配慮して置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使用した歩行練習や運動を行うなど一人ひとりが安全で身体能力に見合った自立した生活を送れるように工夫している。		